

【学生フォーラム】

## 岡崎市 太陽の城跡地活用に関する提案

～宇野ゼミナール～

愛知産業大学 小池那豊

### 要 旨

提案に至るまでの経緯として、岡崎市が平成 20 年より進めてきた太陽の城跡地活用事業である「コンベンション施設の整備」に関して、岡崎市より学生からの意見も聞きたいというお話を頂き、愛知産業大学からゼミごとに 3 つのグループに別れ、それぞれコンベンション施設に関しての提案を行うことになりました。今回は宇野勇治ゼミナールを代表して、提案から最終的な素案の決定に至るまでの内容を報告させていただきます。

#### 1. 太陽の城跡地活用に関する問題

今回の提案の対象となる太陽の城跡地は、岡崎市明大寺の乙川に架かる殿橋の南に位置する場所にある、面積約 8700 m<sup>2</sup>の事業用地です。平成 20 年より「QRUWA 戦略」というまちづくり事業が始まり、「コンベンション施設の整備」はこのまちづくり事業のうちの一つとなります。この事業計画自体に問題はなく、現在まで順調に進んできましたが、問題とされているのは、民間投資による整備計画のはずが、80 億円もの税金が投入されるホール整備になっていた点にあります。税金を使うのであれば、市民が納得し、利益として還元される形で実現する必要性があり、そのためにはどのような機能が求められているか等を市民から意見聴取しなければならないという結論に至りました。

これらの経緯を経て、愛知産業大学からも、若い学生の視点から見た太陽の城跡地活用に関する意見を伺いたいという要望があり、フィールドワーク、中間発表、最終発表という順を追って、太陽の城跡地活用に関しての提案をさせていただき運びとなりました。

##### (1) フィールドワーク

フィールドワークは、太陽の城跡地、河川敷、桜城橋、天下の道、籠田公園の順で、市の担当者と巡り、土地の規模感や活かそうなところ、気になる点などの、現地見学を経て感じたことをゼミナールごとに挙げ、中間発表に向けた提案のための情報をまとめました。

##### a) 現地見学を経て感じたこと

土地が地図上で見るよりも広く、河川敷周辺の景観も開けており良いと感じました。反面、土手と街路樹がある事により太陽の城跡地からの景観が損なわれ、道路によって分断されてしまうことで河川敷へのアクセスもしづらいという意見が多くありました。そこで、太陽の城跡地から河川敷に直接アクセスできるような構造や、周囲の木々や景観を活かし、屋上緑化あるいは屋上庭園などを設けると良いのではないかと考え、提案の要素として取り入れることにしました。

##### (2) 中間報告

中間発表では、コンベンションホールとホテルに分け、それぞれ提案をしました。既存の計画案に対し、「現状のコンベンション施設では特定の人々しか活用できず、十分な需要を生むことができないのではないか」、「ホテルに関しても宿泊以外の機能性を充実させてはどうか」という意見が多くを占め、老若男女別け隔てなく使える複合的な機能や要素を持つ施設を提案することとなりました。

要素面では、岡崎にしかない象徴性を持ったデザインと、歴史ある岡崎の既存の祭事や伝統行事を彷彿とさせるような建物にしたいと考えました。また機能面では、足湯や温泉、のような屋上庭園、児童が遊べるアスレチックの様な空間、中高生が使える秘密基地のような空間など取り入れたいと考えました。

#### a) 既存案に対する提案

既存の案では、河川と施設が地上のみで接続されており、施設と川沿いの一体感が弱く、外観も岡崎としての個性に乏しい印象でした。そこで提案では施設を段丘状にし、屋上庭園を設けることで施設が川沿いの自然の一部になり、自然環境を連続させることができるようになりました。また、様々なところから施設にアクセスできることでシームレスな移動が可能となり、個性も生まれました。

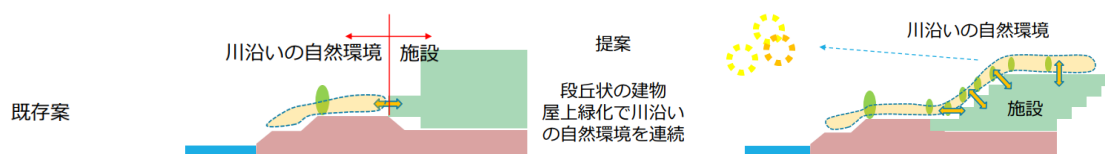


図1 既存の案と新たな提案

#### (3) 最終提案

中間報告の際に、市長から「伝統的な日本家屋にある『土間』のような障子などの仕切り方によって使い方が変わるフレキシブルな空間がある建物が良いのではないか」というご意見を頂きました。また、市民の意見からは「ハコモロではなく芝生広場がよい」、「川を有効活用してほしい」という声が目立ちました。

これらの意見を踏まえ、河川を活かした芝生広場のある土間の機能を持つ施設にしようと考え、中間報告での提案内容を取り入れた上で、新たに提案をしました。

#### a) 水辺にある豊かな自然と原っぱを持つ施設

具体的な提案にするため、既存の平面図を見直し、川辺りから施設に繋がる原っぱ公園を設け、その中間に施設の各要素を結ぶ交流ゾーンを設けました。交流ゾーンにはショップ、飲食店、足湯等の店舗が入ることを想定しています。建物の高さは抑え、東岡崎駅から岡崎城への視線の動線に配慮しました。また、先にも挙げた『土間』の要素は建物の配置によるメタファーとして取り入れ、内部空間のつながりも土間のような使われ方になるように考慮しました。

#### 2. 最後に

今回行った、太陽の城跡地に関する提案については、岡崎市より発表された最終案にていくつかが採用されており、宇野ゼミナール一同大変喜ばしく思っています。また、市長並びに職員の方々、市の事業に関わらせていただく貴重な機会を下さり、ありがとうございました。

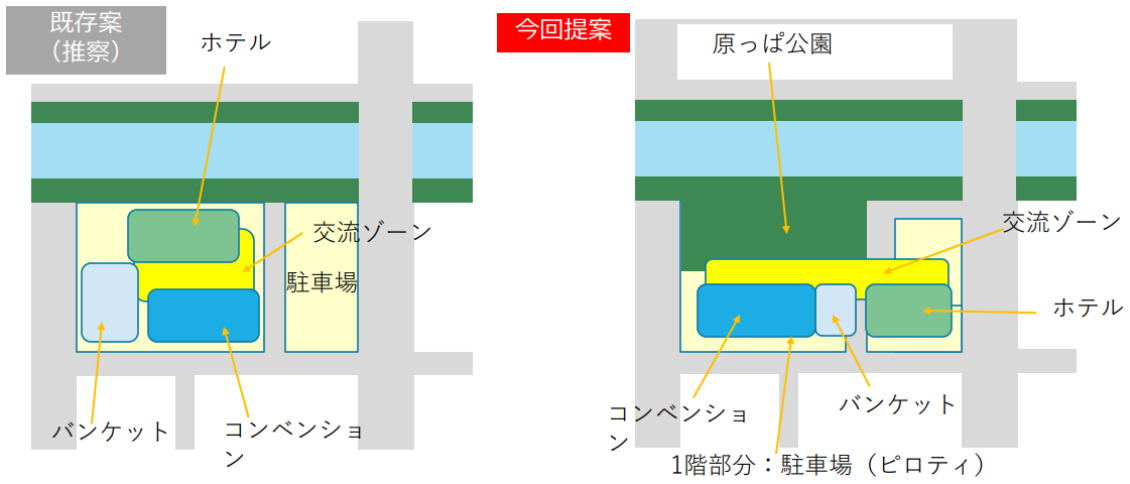


図 2 既存案と平面イメージの提案

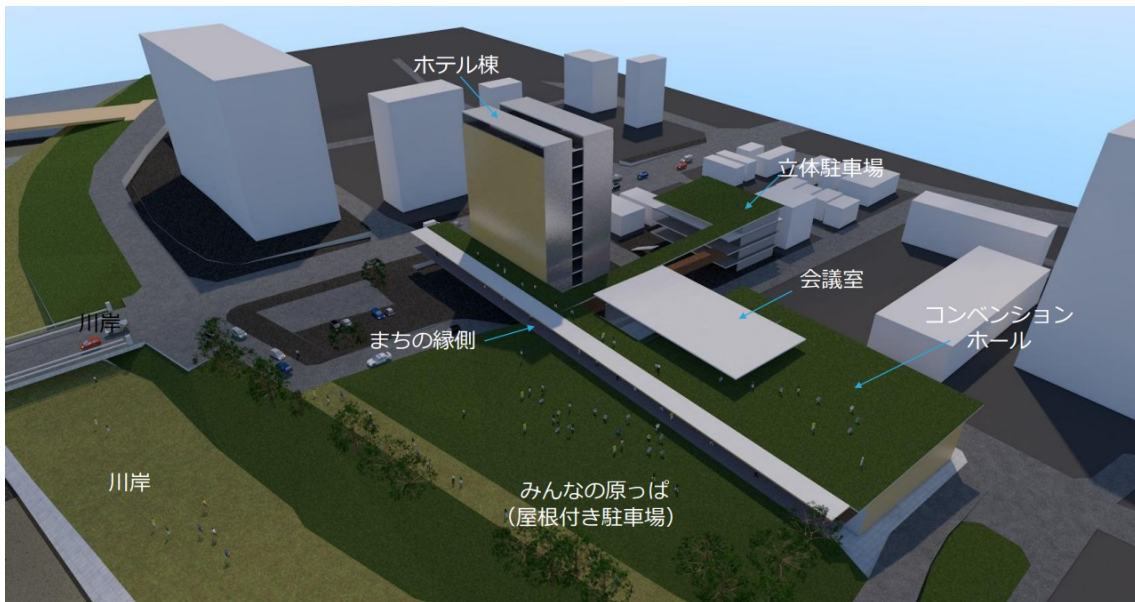


図 3 提案の3Dイメージ